



インターネットとの向き合い方



ニセ・誤情報

にだまされないために



《《 第 2 版 》》

(2025年2月改訂)

講座実施の手引き

目次

1. はじめに

- 1-1. 本講座の概要 3
- 1-2. 講座の構成 4

2. 講師

- 2-1. 講師の確保 6
- 2-2. 講師に求められるスキル 8

3. 講座の進め方・効果検証・カスタマイズ

- 3-1. 講座の進め方の例 10
- 3-2. 効果検証方法 11
- 3-3. 講座のカスタマイズ例 12

4. 効果検証テストの詳細

- 4-1. 効果検証テストの概要 15
- 4-2. 効果検証テストの詳細 16

5. 意識調査・講座アンケートの詳細

- 5-1. 意識調査・講座アンケートの概要 27
- 5-2. 意識調査の詳細 28
- 5-3. 講座アンケートの詳細 29

▶ 1. はじめに

目的

本講座は、受講生が「ニセ・誤情報」（フェイクニュースという表現は使用しない）に関する理解を深め、情報を適切に扱う力を養うことを目的とする。

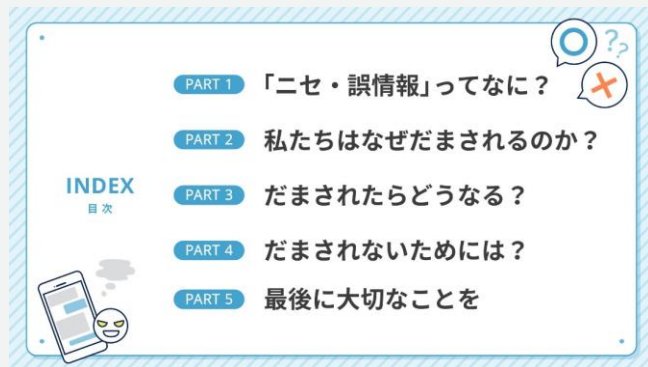
対象

中学生以上の学生、一般市民、企業研修者、公務員など、あらゆる層の受講生が、ニセ・誤情報について知り、それに備えることができるようになるために設計されている。

特徴

本講座は、オンライン講座や録画配信でも実施できるよう設計されている。
そのため、講師との対面でのやり取りがなくても理解できる構成となっている。

本資料は以下の5つのパートで構成されている。



1. 「ニセ・誤情報」ってなに？

- ▶ ニセ情報と誤情報の違い、具体的な例（感染症の情報、政治的な情報、災害時の情報など）

2. 私たちはなぜだまされるのか？

- ▶ 認知バイアス、ニセ・誤情報の統計データ、フィルターバブル、アテンション・エコノミー

3. だまされたらどうなる？

- ▶ 社会的影響、個人への影響

4. だまされないためには？

- ▶ 情報を検証する際のチェックポイント、拡散しないことの重要性

5. 最後に大切なことを

- ▶ 事実と意見の区別、自信を持たないことの重要性

▶ 2. 講師

2-1. 講師の確保（1）

本講座を実施するためには、適切な講師の確保が不可欠である。
講師の確保にあたっては、以下の要件を満たすことが望ましい。

1. 講師の選定基準

本講座の講師は、以下のいずれかの経験・知識を有することが望ましい。

- ICTリテラシー関連の知識がある（特にニセ・誤情報、ファクトチェックに関する基礎知識を持つ）
- 教育・研修の経験がある（学校教員、研修講師、図書館司書など）

2. 外部講師の活用

自組織で適切な講師を確保できない場合は、以下の外部講師の活用を検討する。

- 大学・専門学校の講師（メディア情報リテラシー、社会学、メディア論などの専門家）
- 図書館司書（図書館は情報リテラシー教育の拠点として活用可能。特に公共図書館や大学図書館の司書は適任）
- メディア・ジャーナリスト（報道関係者やファクトチェック団体の専門家を招くことで、実践的な内容が提供可能）
- 企業研修講師（ビジネスパーソン向けにニセ・誤情報の影響を解説できる専門家）

3. 講師の事前準備

講師は、講座を実施する前に以下の準備を行うことが推奨される。

- **講座資料の熟読**

各パートの内容を理解し、受講生の対象に応じたカスタマイズを検討する。

- **模擬講義の実施**

本講座を実施する前に、模擬講義を行い、説明の流れや時間配分を確認する。

- **質疑応答の準備**

受講生からよくある質問に対する回答を準備しておく。

（例：「SNS上で見た情報が本物か見極める方法は？」）

2-1. 講師に求められるスキル

本講座は、講師用ガイドラインを読み上げて実施することが可能であり、特別な専門知識がなくても講座を進められる。しかし、以下のスキル・知識を有する講師が望ましい。

1. 必須スキル

- **わかりやすく説明できるスキル** 受講生の理解を促すわかりやすい話し方ができる。
- **受講生とのコミュニケーション能力** 受講生の質問に対して適切に対応できる。

2. 望ましい知識

- **ニセ・誤情報の種類と拡散メカニズム**
「ニセ情報」「誤情報」の違いや、拡散しやすい心理的要因（認知バイアス、フィルターバブルなど）を理解している。
- **ファクトチェックの基礎**
ニセ・誤情報を見極めるための基本的なチェック手法（情報源の確認、逆画像検索、専門家の見解を調べる方法など）を説明できる。
- **SNSやインターネットの影響**
情報拡散の仕組みや、SNSアルゴリズムの影響について基本的な理解がある。

▶ 3. 講座の進め方・効果検証・カスタマイズ

本講座は、講師用ガイドラインに沿って進めることで、さまざまな受講者層に対応できる構成となっている。以下に、講座の時間に応じて3つのパターンの進行例を紹介する。

1 60分コース (基本コース)	1. 講義 50分 2. 質疑応答 10分
2 90分コース (効果検証テスト付き)	1. ニセ・誤情報の事例紹介＋事前テスト 15分 2. 講義 50分 3. 質疑応答＋事後テスト 25分
3 120分コース (アクティブラーニング型)	1. ニセ・誤情報の事例紹介＋事前テスト 15分 2. 講義 50分 3. グループディスカッション 30分 (講座で印象的だったことや、日常生活での知識の活かし方を議論) 4. 質疑応答＋事後テスト 25分

本講座の効果を測定するため、受講生に対して以下の3種類のテスト・調査を実施する。
効果検証テストは全10問。

効果検証方法

- **効果検証テスト（事前・事後テスト）**
受講生の理解度の変化を定量的に測定。
- **意識調査**
受講後の受講生の意識変化を確認。
- **講座アンケート**
講座内容の評価を収集し、今後の改善に活用。

講座資料はそのままでも幅広い対象に講義可能なものだが、必要に応じて講座実施者がカスタマイズ可能な形式となっている。例えば、以下のようなカスタマイズが考えられる。

1. 中高生向け

- SNSやYouTubeで拡散される情報の事例や、インフルエンサーが被害に遭ったような身近な事例を多く取り上げる。
- 「インフルエンサーが発信した情報は必ず正しいか？」を考えるワークを追加。

2. 企業研修向け

- 企業の評判リスクとしての二セ・誤情報の影響を強調。
- 社内での情報共有時に注意すべきポイントを整理。
- 従業員が二セ・誤情報にだまされるとどのようなリスクがあるか？を解説。

3. 公務員向け

- 災害時に広まる二セ・誤情報の事例を解説。
- 行政が二セ・誤情報にどのように対応すべきかを議論する時間を設ける。

4. 高齢者向け

- 健康・医療関連の二セ・誤情報や詐欺を中心に解説。
- メッセージアプリやメールで拡散されやすい二セ・誤情報の見極め方を紹介。

5. 地域コミュニティ向け

- 町内会・自治体向けに、災害時の二セ・誤情報対策を重視。
- 地域での正確な情報共有の仕組みを考えるワークショップを追加。

▶ 4. 効果検証テストの詳細

概要

- 本効果検証テストは、資料を使つての講義を実施する前後で同じものを行うことで、各学習目標に対応したスコアの変化を分析できる。
- それぞれの問いについて、正解であれば1点、そうでなければ0点で部分点はない。
- インターネットを使って回答できるフォームや、紙で印刷しての配布などで使用することを想定している。

問題 1

次のうち、正しいものをすべてお選びください。

- a. 意図的に作られた虚偽の情報のみが、二セ・誤情報とみなされる
- b. 二セ・誤情報は、内容の正確性よりも感情を刺激する要素が強いため、真実・事実よりも拡散されやすい
- c. 面白くない情報、興味をひかない情報を二セ・誤情報と呼ぶ
- d. 人々の善意や正義感を利用することで、二セ・誤情報は広まりやすくなる
- e. この中に正しいものはない

解答

b, d

学習目標の対応

二セ・誤情報の特徴を理解する

問題 2

次のうち、正しいものをすべてお選びください。

- a. 一部の事実を含んでいる情報であれば、誤りを含んでいても二セ・誤情報とはみなされない
- b. 企業の公式発表は、事実に基づいているため常に信頼できる
- c. グラフは、作成者の意図によって異なる印象を与えることがある
- d. 統計データを意図的に誤解させるような形で利用した二セ・誤情報が存在する
- e. この中に正しいものはない

解答

c, d

学習目標の対応

誤解を招く情報の種類を理解する

問題 3

次のうち、正しいものをすべてお選びください。

- a. 人は、自分の信じたい情報に対して批判的な思考を持ちにくいいため、よりだまされやすい
- b. 冷静で情報リテラシーの高い人であっても、ニセ・誤情報にだまされる可能性がある
- c. 複数の目撃者がいる場合、それぞれが異なる見方をする可能性があるため、同じ認識になるとは限らない
- d. ニセ・誤情報には、人々の感情を刺激する要素（興味・不安・怒りなど）が含まれていることが多く、それによって拡散されやすい
- e. この中に正しいものはない

解答

a, b, c, d

学習目標の対応

自分がだまされる可能性とその理由を理解する

問題 4

次のうち、正しいものをすべてお選びください。

- a. 特定の個人や企業の利益を目的として、意図的に二セ情報が作られることがある
- b. 二セ・誤情報の拡散によって、損をする人や得をする人がいる
- c. クチコミや個人の体験談は生の声なので、信頼してよい
- d. 特定の政治家に関する二セ情報が選挙時に拡散されることがある
- e. この中に正しいものはない

解答

a, b, d

学習目標の対応

二セ情報が発信される動機を理解する

問題 5

次のうち、正しいものをすべてお選びください。

- a. ニセ・誤情報が、社会の混乱や暴動を引き起こす要因となることがある
- b. 悪意なく誤情報を拡散した場合でも、法的責任を問われることがある
- c. 医療や健康に関するニセ・誤情報が、人命に重大な影響を与えることがある
- d. ニセ・誤情報は、インターネットに限定された現象であり、現実社会にはほとんど影響を及ぼさない
- e. この中に正しいものはない

解答

a, b, c

学習目標の対応

誤った情報の共有が社会に及ぼす影響を理解する

問題 6

次のうち、正しいものをすべてお選びください。

- a. SNSの投稿内容を見れば、世間の動きや意見を客観視できる
- b. SNSのアルゴリズムは、特定の傾向を持つ情報を優先的に表示することがあり、それがニセ・誤情報の拡散に影響を与える可能性がある
- c. ネットのニュースは、ユーザーの関心や行動履歴に基づいて異なる記事が表示されることがある
- d. 多くのSNSでは、ユーザーが関心を持つ情報が優先的に表示されるため、似たような意見ばかり目にする傾向がある
- e. この中に正しいものはない

解答

b, c, d

学習目標の対応

アルゴリズムが情報接触に与える影響を理解する

問題 7

次のうち、正しいものをすべてお選びください。

- a. 広く拡散されている情報は信頼性が高い
- b. ある情報について、その分野の専門家による事実に基づいた見解は信頼性が高い
- c. 情報の出典が明確でない情報は特に慎重に検証する必要がある
- d. 身近な人（家族や友人）からの情報は信頼してよい
- e. この中に正しいものはない

解答

b, c

学習目標の対応

信頼できる情報源にどのようなものがあるかを知る

問題 8

次のうち、正しいものをすべてお選びください。

- a. 情報の出典を確認し、より信頼性が高い情報源を参照することが望ましい
- b. ある情報について、異なる視点や反論がある場合、それらを確認することで情報の正確性をより確認できる
- c. 人命にかかわる情報を見たら、すぐに拡散すべきである
- d. 混乱しないため、最初に見た1つの情報源を優先することが望ましい
- e. この中に正しいものはない

解答

a, b

学習目標の対応

情報を確認する方法を知る

問題 9

次のうち、正しいものをすべてお選びください。

- a. 情報を広める前に、それらが事実かどうかを検証する姿勢が求められる
- b. 感情に訴える情報ほど、冷静に事実かどうか検証することが重要である
- c. 信頼できる人が言っている情報なら、事前の検証なしに拡散しても問題ない
- d. 重要な情報であれば、急いで知らせる必要があるので、情報源を確かめずに発信・拡散してよい
- e. この中に正しいものはない

解答

a, b

学習目標の対応

情報との適切な向き合い方を知る

問題10

次のうち、正しいものをすべてお選びください。

- a. 事実と意見は異なるものであり、事実をもとに異なる解釈が生じることがある
- b. 多様な意見があることを理解し、異なる視点を検討することが重要である
- c. すべての情報には明確な正解があり、どちらの意見が正しいかは明確に決まる
- d. 間違いだと思う意見に対しては、それを批判して取り消させることが重要である
- e. この中に正しいものはない

解答

a, b

学習目標の対応

事実と意見の区別の重要性と、多様な意見の存在を理解する

▶ 5. 意識調査・講座アンケートの詳細

概要

- 意識調査と講座アンケートは、講義実施後に行う。講義実施後の効果検証テストの後に連続して実施して良い。
- 意識調査では受講後の受講生の意識変化を確認し、講座アンケートでは講座内容の評価を収集して今後の改善に活用する。
- インターネットを使って回答できるフォームや、紙で印刷しての配布などで使用することを想定している。

問
1

過去に自分が誤った情報を信じていたかもしれないと感じた。

- ☐ 当てはまる
- ☐ やや当てはまる
- ☐ あまり当てはまらない
- ☐ 当てはまらない

問
2

過去に自分が誤った情報を発信していたかもしれないと感じた。

- ☐ 当てはまる
- ☐ やや当てはまる
- ☐ あまり当てはまらない
- ☐ 当てはまらない

問
3

今後は情報に対して「これは二セ・誤情報なのでは」と注意できそうだと感じた。

- ☐ 当てはまる
- ☐ やや当てはまる
- ☐ あまり当てはまらない
- ☐ 当てはまらない

問
4

二セ・誤情報を判断する能力を伸ばしたいと感じた。

- ☐ 当てはまる
- ☐ やや当てはまる
- ☐ あまり当てはまらない
- ☐ 当てはまらない

問
5

本日の講座で得た知識を、誰かに伝えたいと感じた。

- ☐ 当てはまる
- ☐ やや当てはまる
- ☐ あまり当てはまらない
- ☐ 当てはまらない

問
1

講座全体に参加していかがでしたか？

- ☐ 良かった
- ☐ やや良かった
- ☐ 良くなかった

問
2

講座時間はどう感じましたか？

- ☐ 長い
- ☐ ちょうど良い
- ☐ 短い

問
3

講座の資料についてどう感じましたか？

- ☐ 良かった
- ☐ やや良かった
- ☐ あまり良くなかった
- ☐ 良くなかった

問
4

今回のような講座は、どの時間帯だと最も受けやすいですか？

- ☐ 平日昼
- ☐ 平日夜
- ☐ 休日昼
- ☐ 休日夜

問
5今回のような講座が今後もあるとしたら、
どのような形態だと最も受けやすいですか？

- ☐ 対面（オフライン）での講習
- ☐ オンラインの講習
- ☐ 録画された動画での講習
- ☐ 資料のみでよい

問
6

講座の内容についての感想・意見・要望を自由にお書きください。
特にない場合は「特にない」とお書きください。

